



空梅雨の影響で断水の文字が紙面を賑わせていましたが、台風五号のお陰様で無事回避できそうですね。これだけ科学が発展しても、まだまだお天道様には敵いません。奢る現代人への仏様からの戒めなのでは？と脳裏を横切りました。

慰霊の日 良啓

七十三回目の慰霊の日がきました。その週のラジオでスタッフと雑談中に、ふっと思いつきました。二十四年前の学生時代、生まれて初めて慰霊の日を東京で迎えました。誰も慰霊の日について会話することはありません。学校は平常通りでした。シヨックでした。一步沖繩を離れると、日常が非日常になり、沖繩と東京の温度差を知りました。原因が距離(物理的)にあるのか、心情(精神的)にあるのかは今も分かりません。

でも、嬉しい出来事が今朝ありました。学生時代の悪友がツイッターでこんな事をつぶやいていました。

「今日は、いつもと違う角度で沖繩を想う。六月二十三日」二十年以上が経過し、温度差が減ってきたと実感しました。

家族を持ち、住職を拝命し、色々な責任を背負って立つ立場になり、平和の尊さ、戦争の愚かさを強く感じます。

なぜ平和が良いのか。どうして悪いと分かっているにも戦争が起きてしまうのか。理由はたくさんあり、言い訳も又、たくさんあります。考えたら切りがありません。なので、考え過ぎない様に、行動する事にします。住職になってから、

毎年慰霊の日に鎮魂の鐘を突いています。今年も「平和が良い、戦争は嫌だ。」と強く念じながら突きました。鐘の音が解き放たれる度に、

平和ポイントが増えた気がしました。来年も突こうと思います。



身近にある仏教語 番外編

裕俊

先日、テレビで「住職・僧侶・和尚・お坊さんの差ってなんですか？」というコーナーがありました。私達も法事の際によく尋ねられる事なので、今回はその差を解説いたします。

【住職】 お寺の代表者です。大きいお寺でも小さなお寺でも一人だけです。住職ではない僧侶に「住職！」と呼び掛けてしまう事は、一般企業で従業員に「社長！」と呼び掛けているようなものなので注意しましょう。

【僧侶】 出家して仏門に入った全ての人を指します。年配の住職も、若いお坊さんも、女性である尼さんも、出家されている人はみんな僧侶です。

【和尚】 宗派によって「おしょう」「かしょう」「わじょう」などと読み方が変わります。経験を経たベテランの僧侶のみが和尚と呼ばれる宗派があるので、注意が必要です。

【お坊さん】 坊(僧侶の住まい)の主という意味の「坊主」が親しまれて呼ばれるようになった言葉ですね。本来の意味であれば住職に近いですが、現在は若い僧侶にも使える言葉です。

どう呼ぶのが一番間違いないのかという点では、「僧侶」か「お坊さん」の二択となりますが、「僧侶さん」ではなにかしっくり来ないので「お坊さん」が良いでしょう。

